

人物
紹介

人が自立して生きていく姿を
支え、見つめる

福祉施設に勤務する。直接担当する業務の延長として、地域の機関に寄せられる人権相談に対応するため、福祉施設をはじめ、学校や関係機関などが集まって開くケース会議に参画し、地域の人権課題に取り組んでいる。

「制度の壁や社会資源の少なさで、満足した支援ができないことが多く、スムーズにいったケースはほとんどありません。そんな中でも、いろんな困難をかかえながら、一人の人間が自立し、生活していく姿を目の当たりにできることはとてもうれしい」

ケース会議の対応としては、勤務時間外に地域や家庭まで足を運び、相談者やその家族の生活までかかわることが多い。最近の事例では、父子家庭で育ったこともあって、18歳になっても入浴や洗濯、掃除などの仕方を知らない子どもにかかわった。「その子ができないのではなく、経験がなかっただけで、できる能力を引き出すためには一緒に行動しながら、教えていくことが大切です」と話す。

さらに、子育て放棄など複雑な家庭環境が原因で不登校傾向にあった地域の子どもを、行政の里親制度を活用して自宅で預かっている。「最初は、感情を素直に表現することもなかったのですが、今では、明るく、元気に学校に通っています」と目を細める。

彼女自身も重度の障害がある2児の母親である。子どもたちは地域の小・中学校に通い、休日には一人でまちに出て、電車にも乗る。「学校や家庭では守ってくれますが、現実の社会は厳しい。社会で自立して生きていくため、自分のことは自分で解決できるように育ててきました。『障害者がまちに出て活動することが当たり前の社会』の実現にもつながると思います」とやさしく微笑む。



なか く ぼ かず み
中久保 一美さん